

令和元年6月14日現在

機関番号：32689

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2017～2018

課題番号：17K13930

研究課題名(和文) 電車内痴漢を性加害とする者の認知的反応傾向の特徴の記述と分類の検討

研究課題名(英文) Description and classification of characteristics of cognitive reaction tendency of train molesters

研究代表者

野村 和孝 (NOMURA, Kazutaka)

早稲田大学・人間科学学術院・講師(任期付)

研究者番号：60758192

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の成果として、「刺激へのとらわれ」の測定を目的としたVTT(東本他, 2013)の妥当性の検討を目的とした調査を行なった結果、VTTが基準関連妥当性を有することが確認された。また、刑務所の被収容者を対象に質問紙調査を実施した結果、強制わいせつ群において、その他の群とは異なる性犯罪関連刺激に対する反応傾向が確認された。これらの結果を踏まえ、VTTと「刺激の評価」を測定するST-IAT(Nomura&Shimada, 2011)を用いた調査を実施した結果、電車内痴漢をした者であっても一様ではなく、個人差があることが確認されたため、さらなるデータ収集を行い、検討を重ねる予定である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、司法・犯罪分野における電車内痴漢をした者の個人差の査定に基づく再犯防止指導の提案につながる臨床的に意義深い研究であると考えられる。本研究で実施した認知的な反応傾向を直接的に測定しうるST-IATとVTTは、意図的な反応をすることが困難な課題であることから心理臨床的有用性が高く、本研究の成果を踏まえると、電車内痴漢を性加害とする者の心理学的特徴を明らかにすることが可能であり、心理学的特徴の分類を行うことができると考えられる。今後、さらなるデータ収集と検討を重ねることによって、わが国の性犯罪再犯防止を目的とした心理学的介入の精緻化に寄与する基礎的な知見になると考えられる。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study was to describe and classify the tendencies of cognitive response of train molesters. I conducted a survey to verify the validity of the Viewing Time Task (VTT), which aimed to measure preoccupation with stimuli. As for the results, I verified and validated the difference between the VTT scores of those who committed sexual offenses and those who did not have a criminal background. Moreover, I conducted a questionnaire survey with inmates in a prison. The group to which train molesters belonged presented responses to stimuli relevant to sexual offenses different from those of the other groups. Based on these results, I conducted a survey using a VTT and a Single-Target Implicit Association Test to measure evaluation of stimuli. Both the results of evaluation of stimuli and preoccupation with stimuli were not uniform among the participants including those who were train molesters, thus revealing individual differences.

研究分野：社会科学

キーワード：性犯罪 電車内痴漢 性犯罪再犯防止指導 認知的反応傾向 リスクアセスメント Viewing time method IAT Viewing Time Task

1. 研究開始当初の背景

わが国の刑務所や保護観察所における国家的施策としての性犯罪再犯防止指導は、10年余りが経過し、重要な取り組みの1つとして定着してきている。指導には、認知行動療法に基づく集団介入プログラムが採用されており（法務省法務総合研究所，2015）、特定の刺激（性加害対象）に対する反応傾向（性加害行動）を変化させることを目的としている。そのため、同一の刺激下における反応傾向（性加害行動）の変化として、再犯の有無を直接的なアウトカムとした効果検証が行われている。一方で、このような取り組みにおいては、介入過程の評価を行うこともまた重要な手続きの1つであり、特定の刺激（性加害対象）と反応傾向（性加害行動）を媒介している認知的な反応傾向の変化を測定することも重要である。

認知的な反応傾向の測定には、海外の多くの研究において、複数の画像、あるいは単語刺激に対する反応時間を指標とした Viewing time method の有用性が示されている（e.g., Bourke & Gormley, 2012）。わが国の性加害に関する Viewing time method の研究として、電車内痴漢行為における刺激の評価の測定を目的とした Single-Target Implicit Association Test（野村，2017；ST-IAT）と性加害対象（刺激）へのとらわれの測定を目的とした Viewing Time Task（東本・五十嵐・小堀・野村・伊豫，2013；VTT）の検討が行われてきた。これらの ST-IAT と VTT の研究は、いずれもわが国の実情に応じた刺激選定を行い、性加害をした者と一般成人男性を対象とした調査を実施しており、その結果、性加害をした者の認知的な反応傾向の測定方法として ST-IAT と VTT の有用可能性が示されている（野村，2017；東本他，2013）。しかしながら、いずれの研究も、対象とした人数が少数であることに加え、それぞれの単一評価にとどまっているという課題をあげることができる。

ST-IAT と VTT は、「刺激の評価」と「刺激へのとらわれ」といった認知的な反応傾向の異なる側面を測定しており、それぞれが独立、あるいは相互作用的に「特定の刺激（性加害対象）に対する反応傾向（性加害行動）」に影響を及ぼすと考えられる。したがって、適切な心理学的な介入技法の選定と評価には、2つの Viewing time method を組み合わせて使用し、「性犯罪関連刺激に対する反応傾向」の特徴を記述し、状態像を分類することも必要となる。なお、わが国に特有の犯罪形態として電車内痴漢をあげられ、既存の性犯罪再犯防止指導に十分な改善効果が確認されていないことから（法務省矯正局成人矯正課，2012）、電車内痴漢の特徴の記述と分類が急務であると考えられる。

2. 研究の目的

本研究では、特定の刺激（性加害対象）と反応傾向（性加害行動）を媒介している認知的な反応傾向である「刺激の評価」と「刺激へのとらわれ」に基づく電車内痴漢の心理的特徴の記述と分類を目的に、2つの Viewing time method を用いて、電車内痴漢を性加害とする者を対象に調査を実施し、「性犯罪関連刺激に対する反応傾向」の特徴の記述と分類の検討を行う。

3. 研究の方法

「刺激へのとらわれ」の測定を目的とした VTT の妥当性の検討を目的とした調査を行なった。VTT は、ボタン押し課題と rating 課題の2つの認知課題で構成される。それぞれの課題において、次の画像へ進むためのキーを押すのにかかった時間を測定し、rating 課題では、各画像に対する性的興奮度の得点を入力し、それに伴う視覚反応時間データを計測する。これらの視覚反応時間と特定の刺激カテゴリーに対する反応の計測をもって「刺激へのとらわれ」を評価する。VTT の妥当性の検討にあたっては、性犯罪をした者と犯罪経験のない者を対象とした調査を行った。

また、性犯罪関連刺激に対する反応傾向の検討を目的とした調査を行なった。性犯罪関連刺激に対する反応傾向は、性犯罪被害に対する共感的反応尺度（野村，2017；共感的反応尺度）の電車内暴力捻挫被害、電車内痴漢被害、強姦被害の3つの犯罪場面に小児わいせつ被害を加えた計4つの犯罪場面のエピソードに対して回答者がその場に居合わせたとしたらどのように感じるのか（感情反応）、そして被害者はどのような気持ちを抱くであろうと回答者が考えたかについて（感情認知）、9つの不快感情語（「心配した」など）と4つの快感情語（「興味がある」など）を使用し、それぞれの感情語に対して5件法（「全くそう思わない」から「とてもそう思う」）で回答を求めた。性犯罪関連刺激に対する反応傾向の検討にあたっては、刑務所の被収容者を対象とした調査を行なった。

そして、「刺激の評価」と「刺激へのとらわれ」に基づく電車内痴漢の心理的特徴の記述と分類を目的に「刺激へのとらわれ」を測定する VTT と「刺激の評価」を測定する ST-IAT を用いた調査を行なった。ST-IAT は、提示される単語や画像を左右に振り分けるボタン早押し認知課題である。「性加害行為」と「感情語（快語，不快語）」の位置の組み合わせが異なる場合における、反応時間の差を比較することを通して「刺激の評価」を測定する。「刺激の評価」と「刺激へのとらわれ」に基づく電車内痴漢の心理的特徴の記述と分類の検討にあたっては、性犯罪をした者を対象とした調査を行なった。

4. 研究成果

「刺激へのとらわれ」の測定を目的とした VTT の妥当性の検討を目的とした調査の主な結果として、性犯罪経験のある者は、性犯罪経験のない者と比較して、成人女性画像刺激、青年期の女性画像刺激、および女兒画像刺激に対する反応時間が有意に長いことが示された ($t(30)=2.63, p<.05$; $t(30)=2.56, p<.05$; $t(30)=2.27, p<.05$)。これらの結果から、VTT は、性犯罪経験の有無を外的基準とした検討によって基準関連妥当性を有することが確認された。

性犯罪関連刺激に対する反応傾向の検討を目的とした調査の主な結果として、共感的反応尺度の各得点を従属変数、犯罪形態と被害場面を独立変数とした 2 要因混合計画の分散分析を行った。その結果、快感情反応得点において交互作用が有意 ($F(3, 413) = 5.40, p < .01$) であったことから、単純主効果の分析を行った。その結果 (図 1)、強制わいせつ群において、その他の群とは異なる性犯罪関連刺激に対する反応傾向が確認された。この結果は、犯罪形態によって反応傾向が異なることが明らかとし、犯罪形態に特有の「刺激の評価」と「刺激へのとらわれ」を検討することの重要性を支持する結果であった。

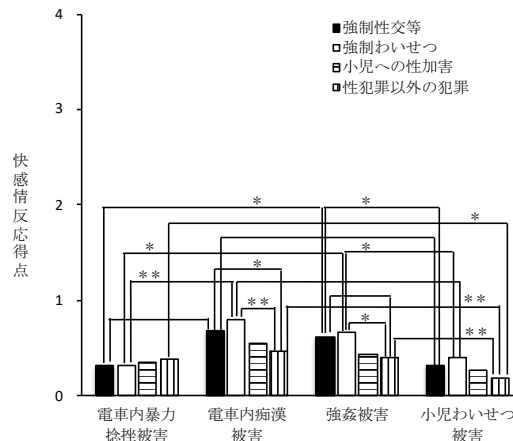


図 1 快感情反応得点における犯罪形態と被害場面の比較 (アスタリスクは有意差を示す (* $p < .01$, * $p < .05$))

「刺激の評価」と「刺激へのとらわれ」に基づく電車内痴漢の心理的特徴の記述と分類を目的に「刺激へのとらわれ」を測定する VTT と「刺激の評価」を測定する ST-IAT を用いた調査の主な結果として、電車内痴漢をした者であっても「刺激の評価」と「刺激へのとらわれ」は一樣ではなく、個人差があることが確認された (図 2)。この結果を踏まえ、さらにデータを追加し記述と分類を試みる予定である。

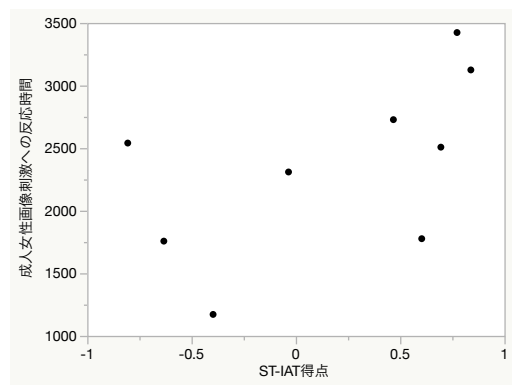


図 2 VTT の成人女性画像刺激への反応時間と ST-IAT 得点の分布

本研究の主な成果は、VTT の妥当性が確認されたこと、犯罪形態に特有の「刺激の評価」と「刺激へのとらわれ」を検討する重要性を支持する結果が得られたこと、そして、電車内痴漢をした者であっても「刺激の評価」と「刺激へのとらわれ」は一樣ではなく、個人差があることが確認されたことである。これらの成果は、「刺激の評価」と「刺激へのとらわれ」に基づく電車内痴漢の心理的特徴の記述と分類についてのさらなるデータ収集と検討が課題ではあるものの、わが国に特有の犯罪形態であるとされる電車内痴漢の再犯防止の取り組みに寄与しうる研究成果であったと考えられる。

<引用文献>

- ①法務省法務総合研究所、平成 27 年版犯罪白書：性犯罪者の実態と再犯防止、日経印刷、2015
- ②Bourke, A. B., & Gormley, M. J., Comparing a pictorial stroop task to viewing time

measures of sexual interest, Sexual Abuse: A Journal of Research and Treatment, Vol.24, 2012, 479-500

- ③野村 和孝、共感性に関する認知行動療法的介入が性加害経験者の性犯罪行動リスクに及ぼす影響、早稲田大学 博士(人間科学) 甲第 4998 号、2017 年 1 月 25 日
- ④東本 愛香、五十嵐 禎人、小堀 修、野村 和孝、伊豫 雅臣、性犯罪のリスクアセスメントに関する研究-生理的指標を用いた性嗜好の評価に関する基礎的研究-、日工組社会安全財団 2012 年一般研究助成研究報告書、2013
- ⑤法務省矯正局成人矯正課、刑事施設における性犯罪者処遇プログラム受講者の再犯等に関する分析、法務省矯正局、2012

5. 主な発表論文等

[雑誌論文] (計 3 件)

- ①野村 和孝、嶋田 洋徳、性非行少年に対する再非行防止を目指した認知行動療法、ケース研究 (家庭事件研究会編)、査読無、334 巻、2019、4-32
- ②野村 和孝、司法・犯罪分野における認知行動療法の理解と実践、北海道医療大学心理科学部 心理臨床・発達支援センター研究、査読有、13 巻、2018、52-64
- ③嶋田 洋徳、野村 和孝、性犯罪への CBT、臨床心理学、査読無、18 巻、2018、73-76

[学会発表] (計 7 件)

- ①野村 和孝、田中 佑樹、嶋田 洋徳、ロリング形式の集団認知行動療法プログラム実施の試み：性嗜好障害患者を対象としたパイロットスタディ、日本犯罪心理学会第 56 回大会、2018 年 12 月 9 日、奈良県文化会館 (奈良)
- ②篠山 義郎、野村 和孝、西尾 昌哉、星野 芳之、安部 尚子、飯野 忠樹、嶋田 洋徳、性犯罪者の心理社会的要因が被害者に対する感情反応に及ぼす影響 (3) 一場面に対する反応性と静的リスクとの関連一、日本犯罪心理学会第 56 回大会、2018 年 12 月 8 日、奈良県文化会館 (奈良)
- ③安部 尚子、野村 和孝、西尾 昌哉、星野 芳之、飯野 忠樹、篠山 義郎、嶋田 洋徳、性犯罪者の心理社会的要因が被害者に対する感情反応に及ぼす影響 (2) 一心理的要因が場面に対する反応性に及ぼす影響一、日本犯罪心理学会第 56 回大会、2018 年 12 月 8 日、奈良県文化会館 (奈良)
- ④星野 芳之、野村 和孝、西尾 昌哉、安部 尚子、飯野 忠樹、篠山 義郎、嶋田 洋徳、性犯罪者の心理社会的要因が被害者に対する感情反応に及ぼす影響 (1) 一犯罪形態が場面に対する反応性に及ぼす影響一、日本犯罪心理学会第 56 回大会、2018 年 12 月 8 日、奈良県文化会館 (奈良)
- ⑤田中 佑樹、嶋田 洋徳、横光 健吾、近藤 あゆみ、村瀬 華子、朝倉 崇文、野村 和孝、神村 栄一、自主企画シンポジウム 9 嗜癖行動に対する「心理的アセスメント」に基づく介入とは?—認知行動療法の最前線—、日本認知・行動療法学会第 44 回、2018 年 10 月 26 日、明治学院大学 (東京)
- ⑥日本健康心理学会研究推進委員会、嶋田 洋徳、金井 嘉宏、原田 和弘、島崎 崇史、井澤 修平、野村 和孝、健康心理学テクニカルワークショップ 論文ではわからない研究・実践の「コツ」を知る、一般社団法人日本健康心理学会第 31 回大会日本ヒューマン・ケア心理学会学術集会第 20 回大会、2018 年 6 月 24 日、京都橘大学 (京都)
- ⑦野村 和孝、嶋田 洋徳、共感性に関する認知行動療法的介入が性加害経験者の性犯罪行動リスクに及ぼす影響、日本心理学会第 81 回大会、2017 年 9 月 22 日、久留米大学 (福岡)

[図書] (計 0 件)

[産業財産権]

○出願状況 (計 0 件)

○取得状況 (計 0 件)

[その他]

該当なし

6. 研究組織

(1)研究分担者

該当なし

(2)研究協力者

研究協力者氏名：五十嵐 禎人
ローマ字氏名：(IGARASHI, Yoshito)

研究協力者氏名：東本 愛香
ローマ字氏名：(TOMOTO, Aika)

研究協力者氏名：嶋田 洋徳
ローマ字氏名：(SHIMADA, Hironori)

研究協力者氏名：大石 雅之
ローマ字氏名：(OISHI, Masayuki)

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。